

平成26年2月28日

調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会
(平成25年度 第1回)

資料1

調査・設計等業務に関する 入札・契約の実施状況 (平成24年度年次報告・概要版)

国土技術政策総合研究所

目 次

1. 調査・設計等分野の契約状況	
(1) 調達方式別発注件数の推移(全業種計)	P1-1
(2) 調達方式別発注件数の推移(土木／測量／地質)	P1-2
(3) 配点比率別「総合評価落札方式」発注件数の推移(全業種計／土木／測量／地質)	P1-3
2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)	
(1) 入札率分布の推移	P2-1
(2) 落札率分布の推移	P2-2
3. 総合評価落札方式の運用実態	
(1) 落札者の状況(順位評価:全体)	P3-1
(2) 価格点1位と2位の評価点差分布(経年変化)	P3-2
(3) 技術点1位と2位の評価点差分布(経年変化)	P3-3
(4) 技術点1位と2位の評価点差分布(配点比率別)	P3-4
4. 業務成績の関係(平成24年度)	
(1) 調達方式・配点比率と業務成績評定点の関係	P4-1

1. 調査・設計等分野の契約状況

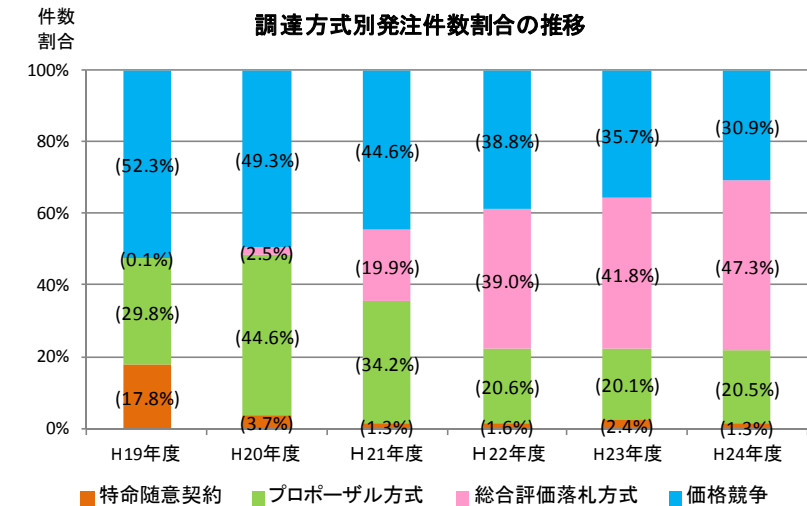
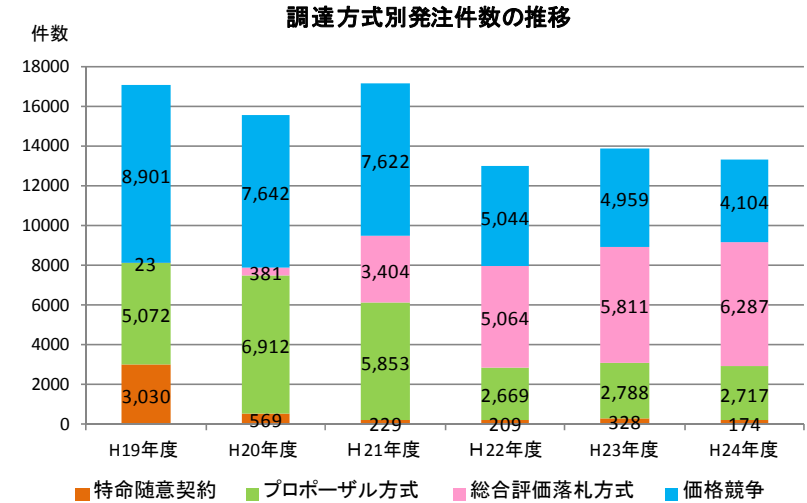
(1) 調達方式別発注件数の推移(全業種計)

- ・平成24年度発注件数は、前年度に比べて4.3%減少した。
- ・平成24年度の調達方式別の発注件数割合は、平成23年度と比較して、価格競争は減少し(35.7%→30.9%)、総合評価落札方式は増加した(41.8%→47.3%)。

地方整備局等(港湾空港除く)における契約状況(単位:件数)

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	調達方式別件数割合の増減 H24-H23	調達方式別件数割合の増減 H24-H19
価格競争	8,901 (52.3%)	7,642 (49.3%)	7,622 (44.6%)	5,044 (38.8%)	4,959 (35.7%)	4,104 (30.9%)	-4.8ポイント	-21.4ポイント
総合評価落札方式	23 (0.1%)	381 (2.5%)	3,404 (19.9%)	5,064 (39.0%)	5,811 (41.8%)	6,287 (47.3%)	+5.5ポイント	+47.2ポイント
プロポーザル方式	5,072 (29.8%)	6,912 (44.6%)	5,853 (34.2%)	2,669 (20.6%)	2,788 (20.1%)	2,717 (20.5%)	+0.4ポイント	-9.3ポイント
特命随意契約	3,030 (17.8%)	569 (3.7%)	229 (1.3%)	209 (1.6%)	328 (2.4%)	174 (1.3%)	-1.1ポイント	-16.5ポイント
合計	17,026	15,504	17,108	12,986	13,886	13,282		

※対象は北海道開発局および8地方整備局発注の業務

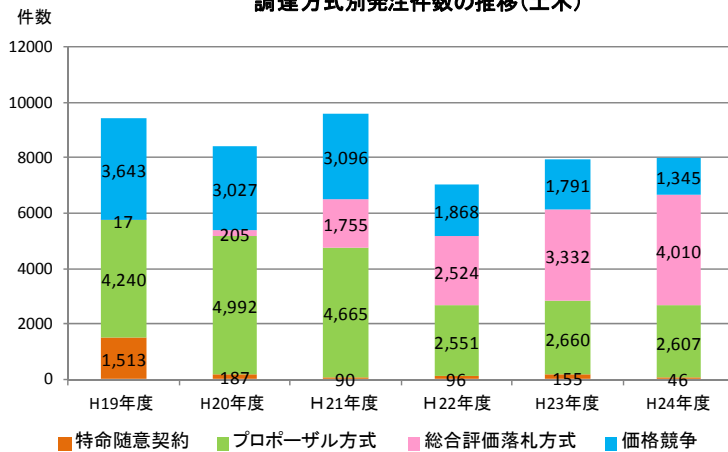


1. 調査・設計等分野の契約状況

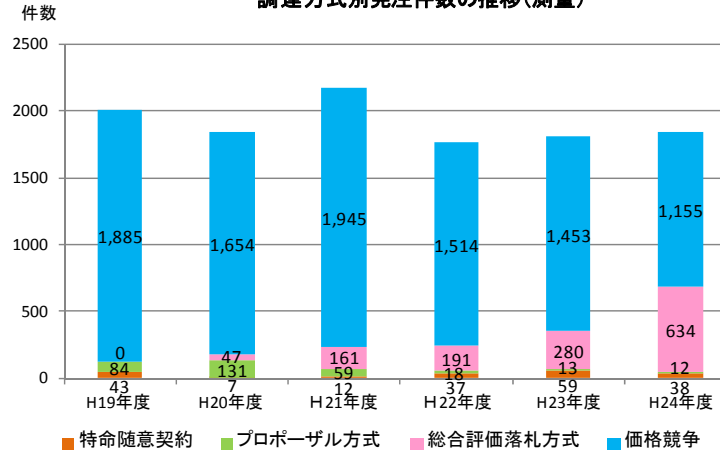
(2) 調達方式別発注件数の推移(土木／測量／地質)

- ・平成24年度の土木業務の発注件数割合は、プロポーザル方式が32.6%、総合評価落札方式が50.1%、価格競争が16.8%となっており、平成23年度に比して総合評価落札方式による発注割合が増加している。
- ・測量業務及び地質業務では、平成24年度においても価格競争による発注件数割合が最も多いが、年々、総合評価落札方式による発注割合が増加している(平成24年度は、測量業務で34.5%、地質業務で38.9%が総合評価落札方式)。

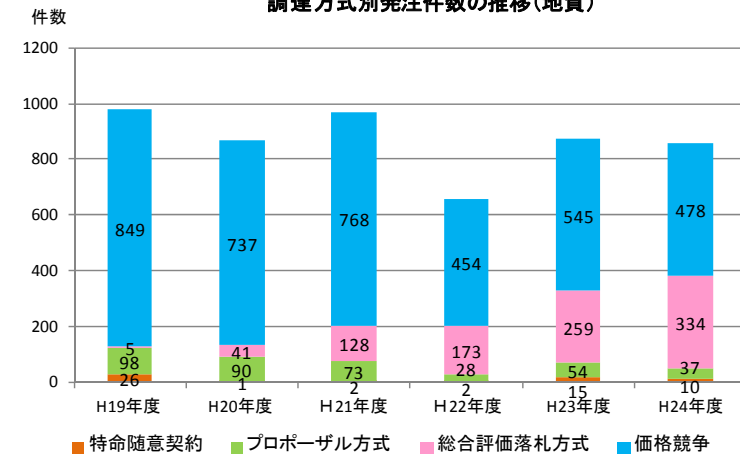
調達方式別発注件数の推移(土木)



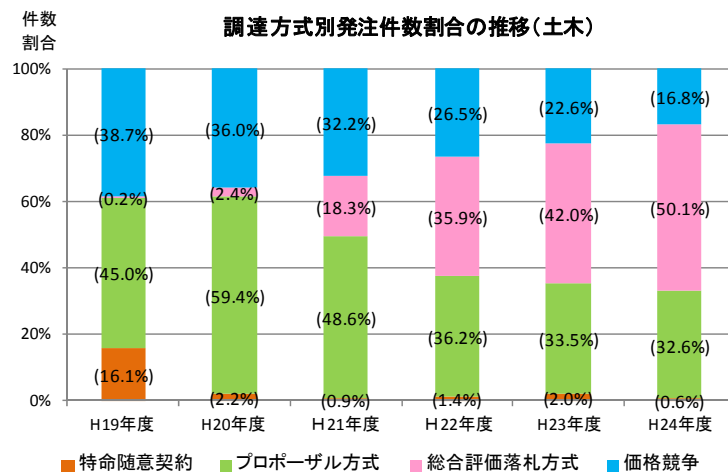
調達方式別発注件数の推移(測量)



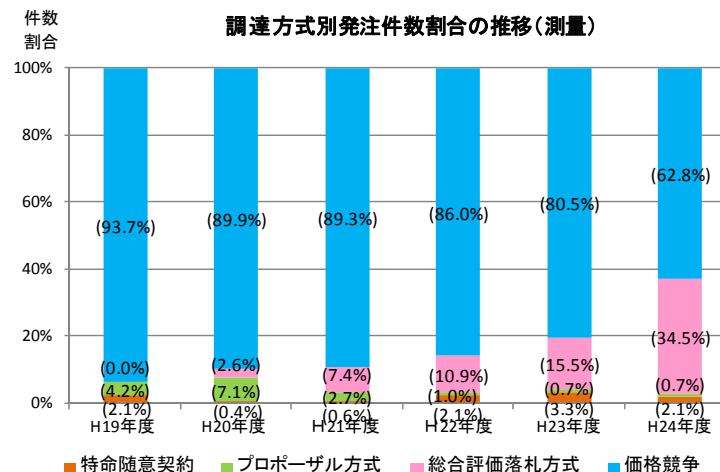
調達方式別発注件数の推移(地質)



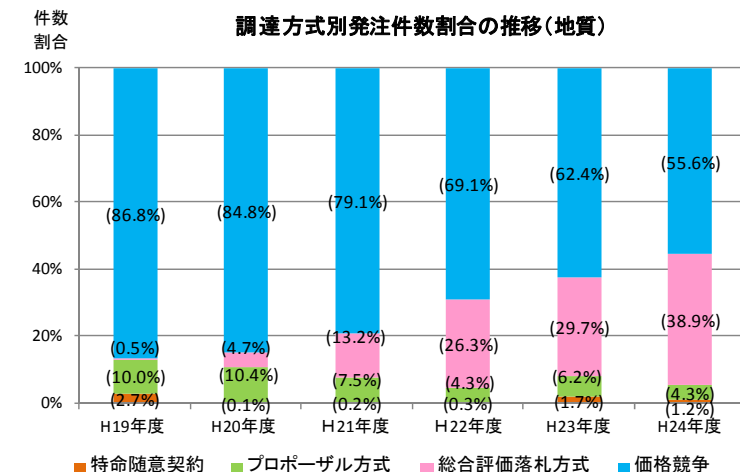
調達方式別発注件数割合の推移(土木)



調達方式別発注件数割合の推移(測量)



調達方式別発注件数割合の推移(地質)

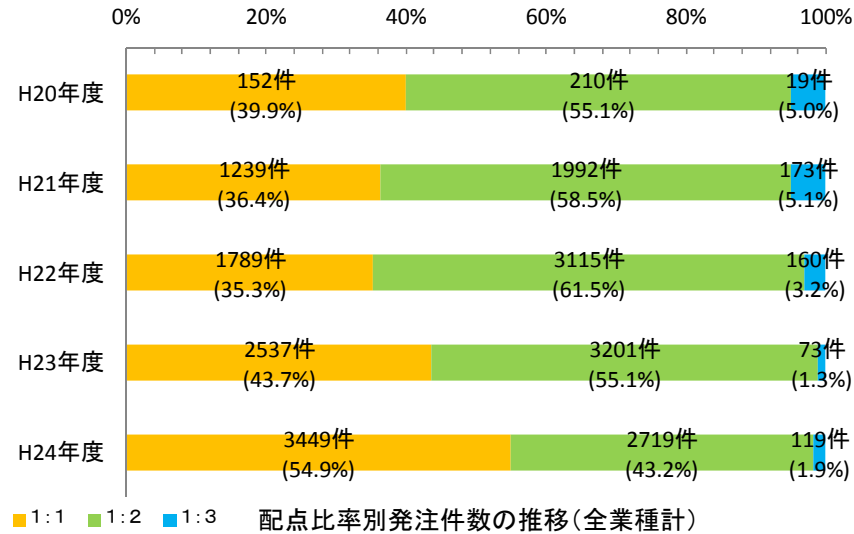


※土木、測量、地質は発注者支援を除く

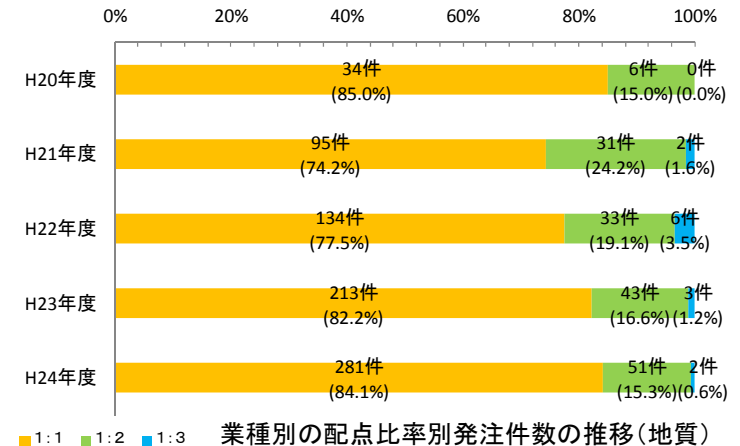
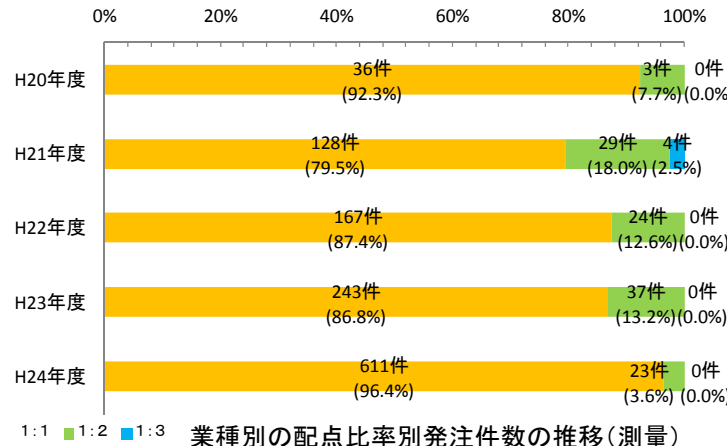
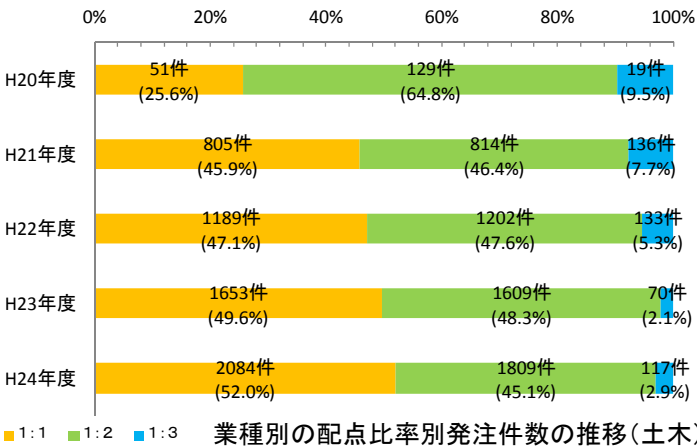
1. 調査・設計等分野の契約状況

(3) 配点比率別「総合評価落札方式」発注件数の推移(全業種計／土木／測量／地質)

- ・配点比率別の実施件数割合は、平成24年度は、1:1は54.9%、1:2は43.2%、1:3は1.9%となっており、平成23年度に比して、簡易型の1:1は増加し、標準型の1:2は減少した。
- ・業種別では、土木、測量、地質の1:1業務は増加し、1:2の業務は減少している。なお、土木の1:3業務は微増した。



	比率	技術提案
標準型	1:3	実施方針+評価テーマ(2つ以上)
	1:2	実施方針+評価テーマ(1つ)
簡易型	1:1 ※ 業務の難易度に応じて1:2も使用可	実施方針のみ



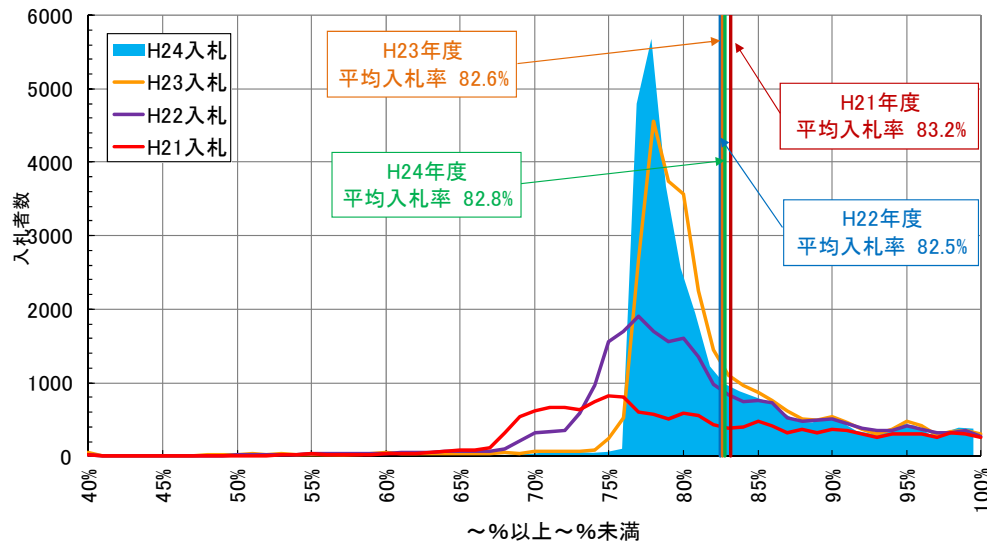
※土木、測量、地質は発注者支援を除く

2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)

(1) 入札率分布の推移

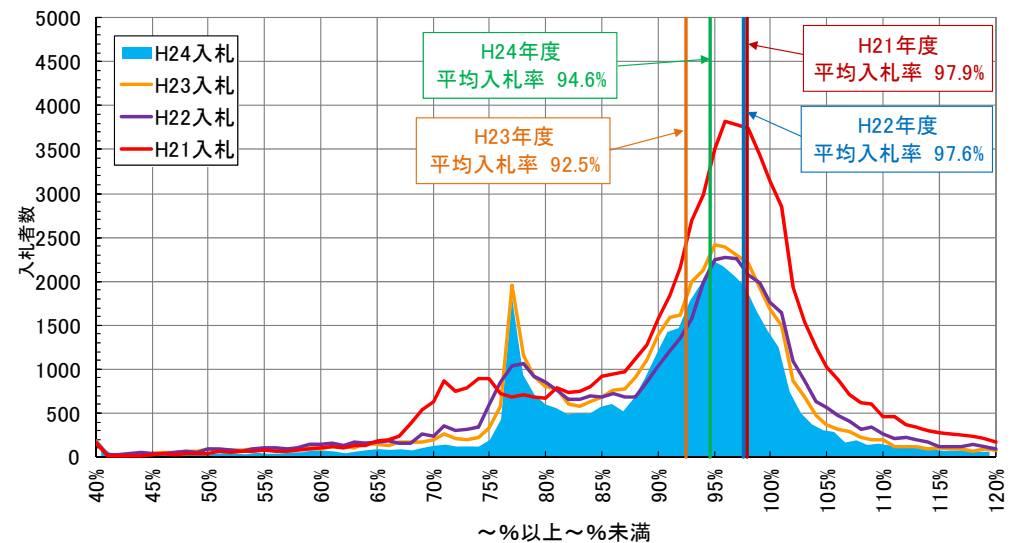
- ・総合評価落札方式では、履行確実性評価が導入された平成23年度以降に入札率の調査基準価格付近(約75~80%)への集中が顕著になっている。
- ・価格競争では、入札率は調査基準価格付近と95~100%の間に2つのピークがあり、件数は后者のピークが多い。また、調査基準価格付近のピークの形状は年々先鋭化している一方で、95~100%のピークの形状は年々緩やかになっている。
- ・平均入札率をみると、総合評価落札方式では顕著な変化は見られないが、価格競争では、平成24年度の平均入札率が平成23年度の平均入札率に比べて若干高くなった。

総合評価 入札率分布:全体



総合評価

価格競争 入札率分布:全体



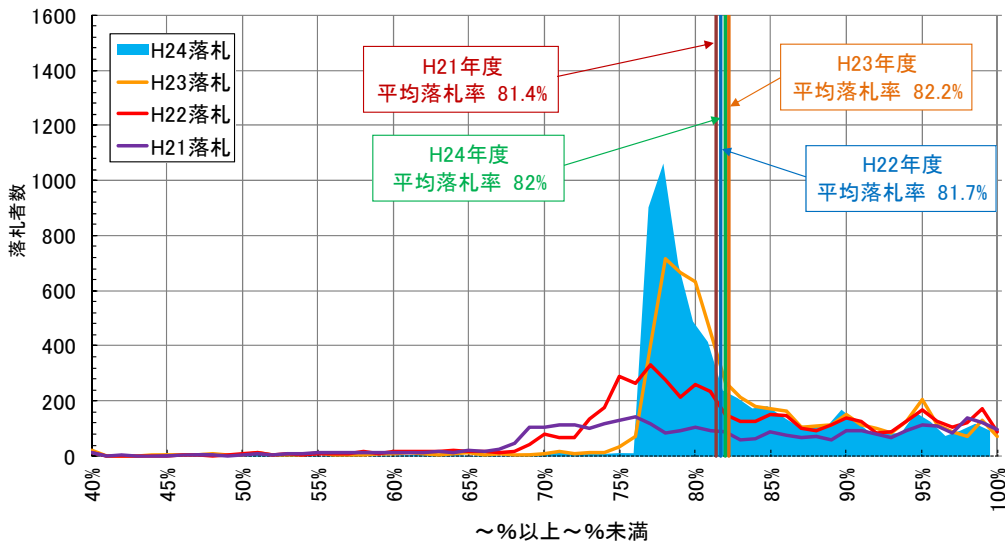
価格競争

2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)

(2) 落札率分布の推移

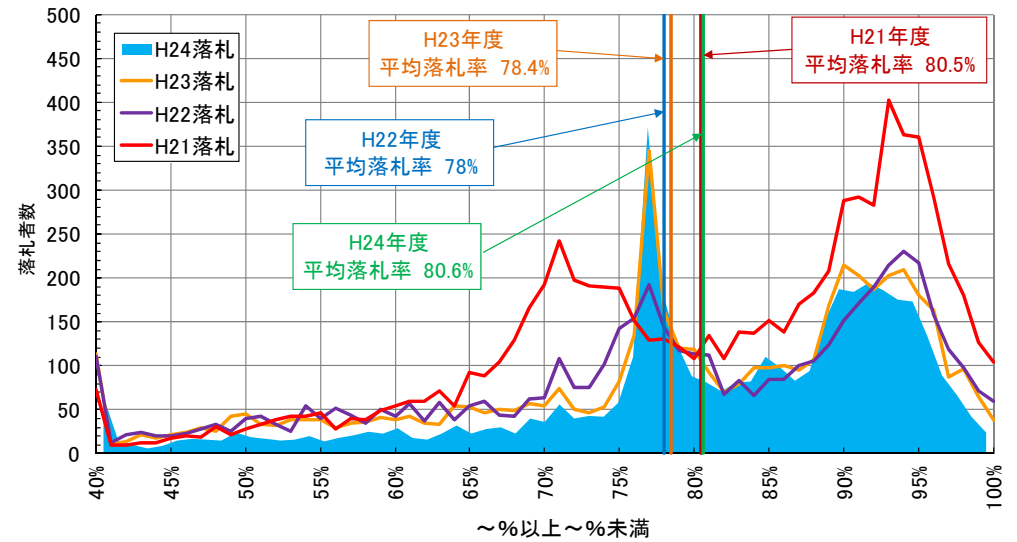
- ・総合評価落札方式では、落札率が調査基準価格付近へ集中し、その傾向が年々著しくなっている。また、調査基準価格未満の落札はほとんど存在しない。
- ・価格競争では、落札率は、調査基準価格付近と90～100%の間の2つのピークがあり、前者のピークは高く、形状が鋭くなっているが、後者のピークは年々低くなり、形状は緩やかとなっている。調査基準価格未満の落札もかなり多く分布している。
- ・平均落札率をみると、総合評価落札方式では顕著な経年変化が見られないが、価格競争では、平成24年度の平均落札率が平成23年度の平均落札率に比べて若干高くなった。

総合評価 落札率分布:全体



総合評価

価格競争 落札率分布:全体



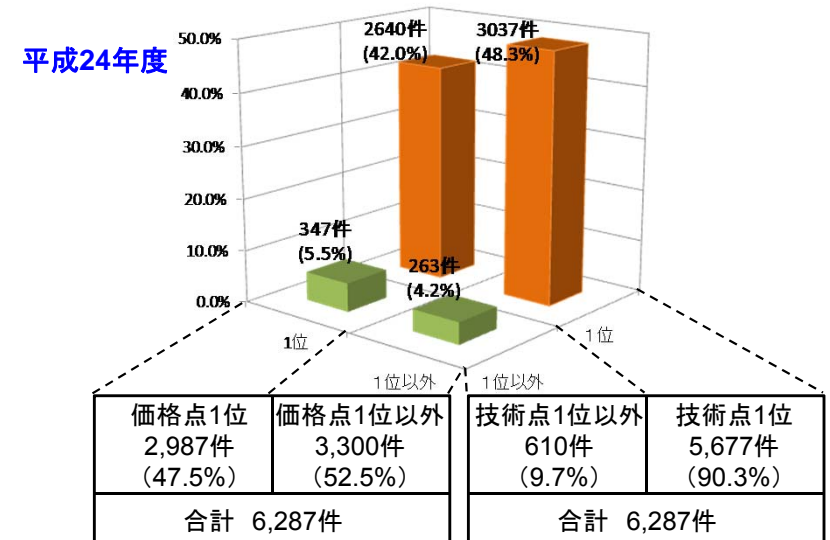
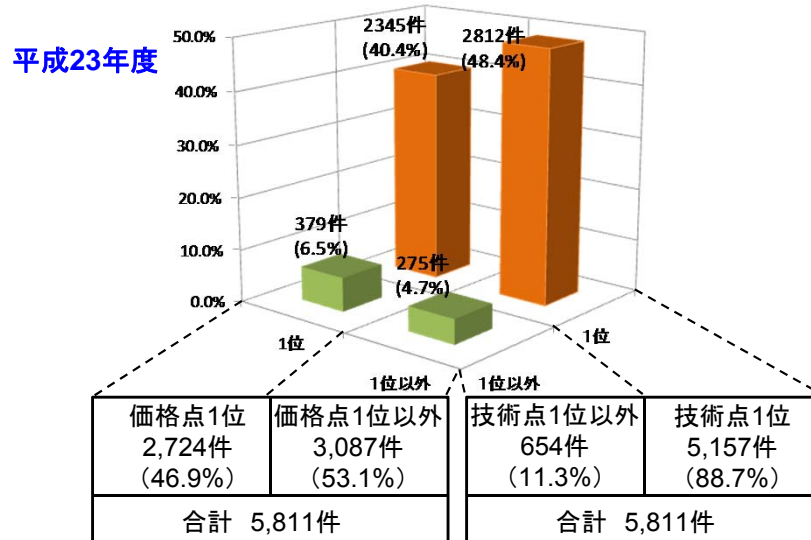
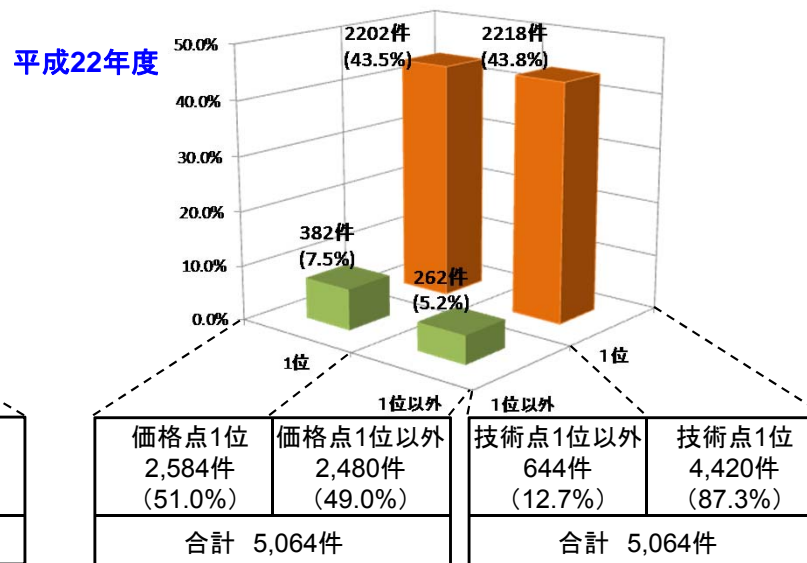
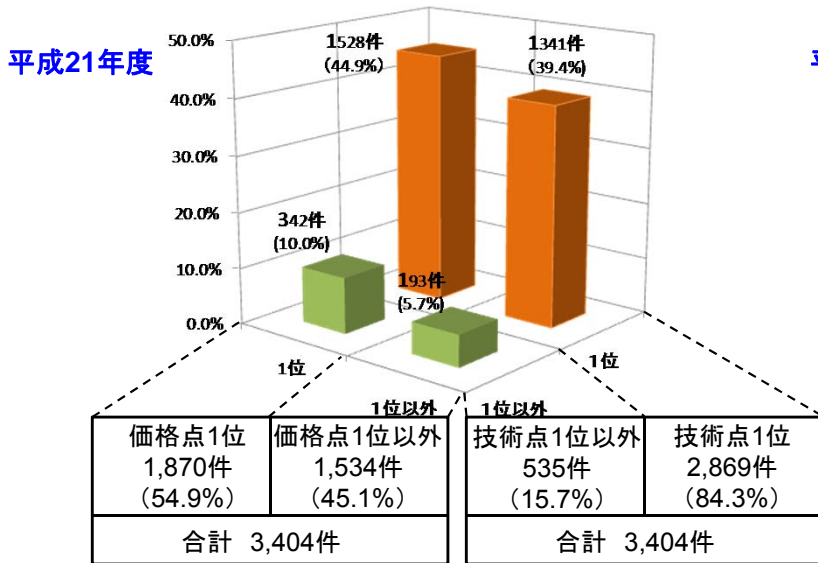
価格競争

3. 総合評価落札方式の運用実態

(1) 落札者の状況 (順位評価：全体)

- ・価格点1位の者を含め、技術点1位の者が落札した割合は、経年的に増加しており、平成24年度は90.3%であった。
- ・平成24年度の価格点1位以外の者が落札した割合は、平成23年度と同水準の52.5%であった。

総合評価落札方式 落札者の内訳 (全業種合計)



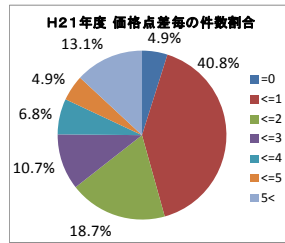
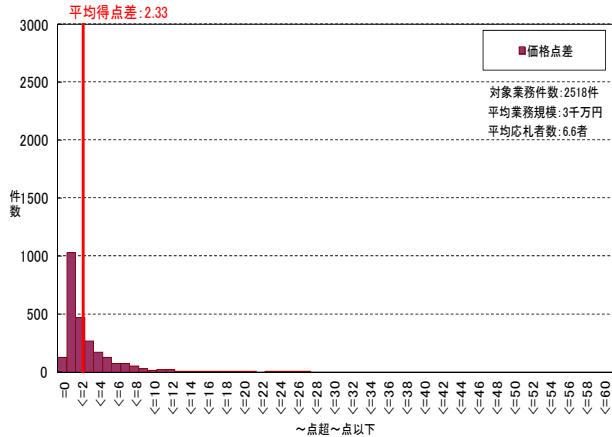
3. 総合評価落札方式の運用実態

(2) 価格点1位と2位の得点差分布（経年変化）

- ・平均業務規模や平均入札者数には大きな変化はないが、価格点の1位と2位の得点差は年々縮小している。
- ・「得点差0～1点」にピークがあり、その傾向は年々強くなっている。「得点差0～1点」の全体に占める割合は、平成21年度：40.8%、平成22年度：49.5%、平成23年度：61.9%、平成24年度：63.8%と増加しているとともに、得点差0点（同点）の全体に占める割合も、平成21年度：4.9%、平成22年度：6.8%、平成23年度：10.9%、平成24年度：11.7%と年々増加している。

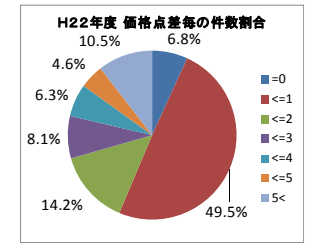
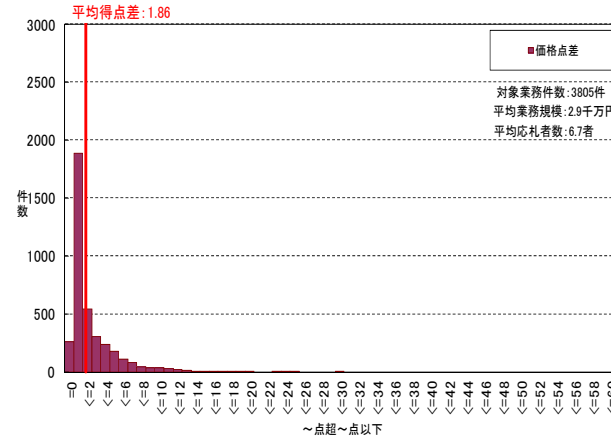
平成21年度

価格評価点の1位と2位の点数差（全業種合計）



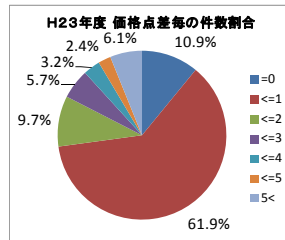
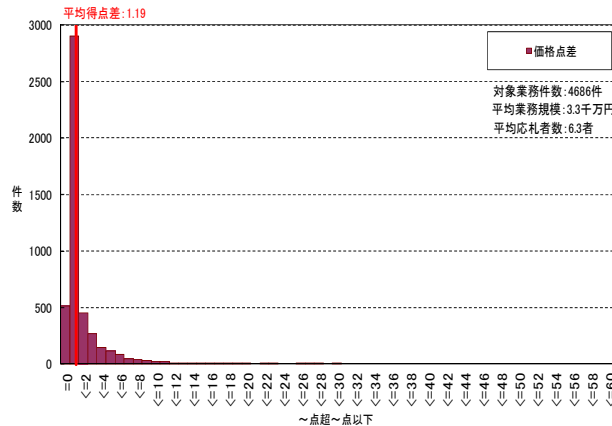
平成22年度

価格評価点の1位と2位の点数差（全業種合計）



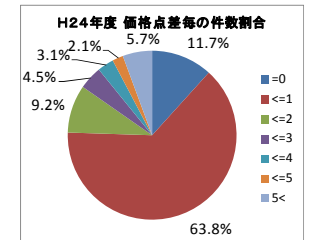
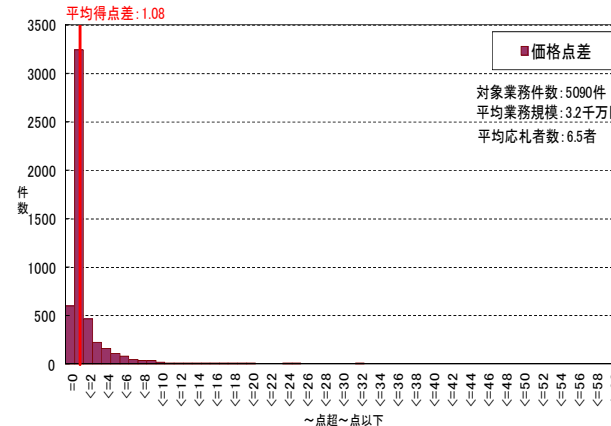
平成23年度

価格評価点の1位と2位の点数差（全業種合計）



平成24年度

価格評価点の1位と2位の点数差（全業種合計）



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

注2) 入札価格が予定価格以下の業者が2者以上の業務で分析

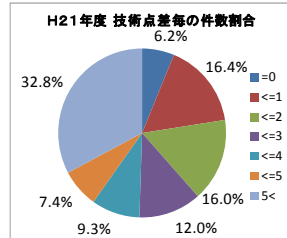
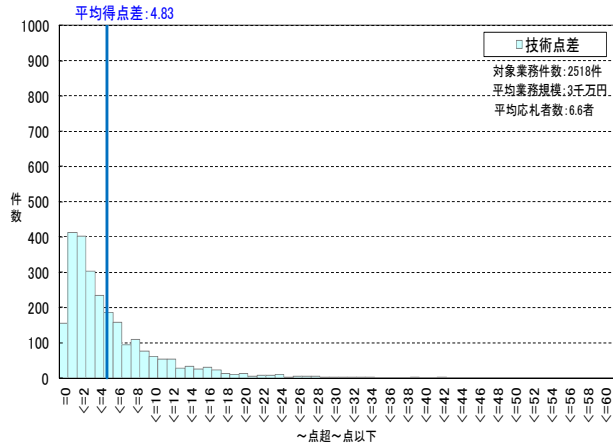
3. 総合評価落札方式の運用実態

(3) 技術点1位と2位の得点差分布(経年変化)

・各年ともに、技術点の平均得点差は5点弱であるが、1位と2位の得点差のピークは「0~1点(全体の17%程度)」にある。また、ゼロ点差(1位同点)も6~8%程度存在する。

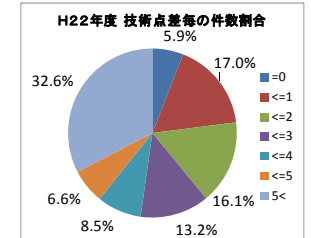
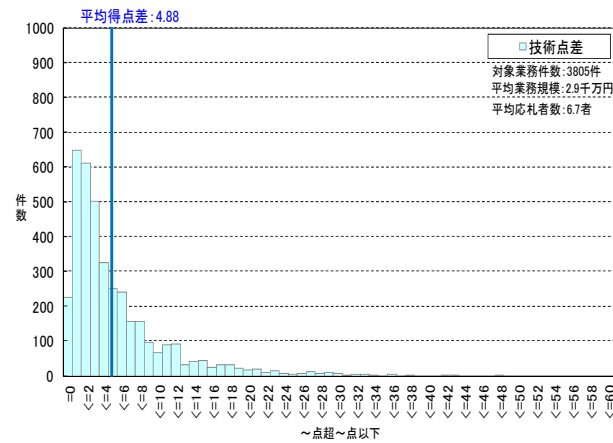
平成21年度

技術評価点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



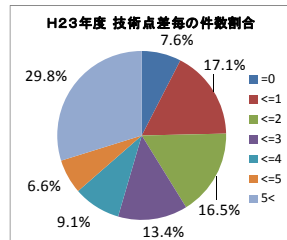
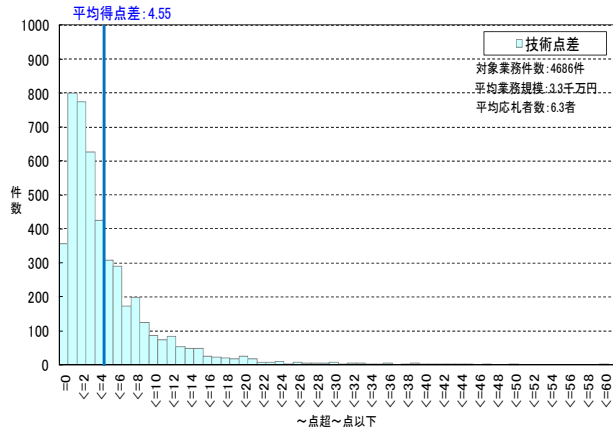
平成22年度

技術評価点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



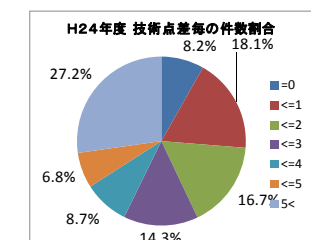
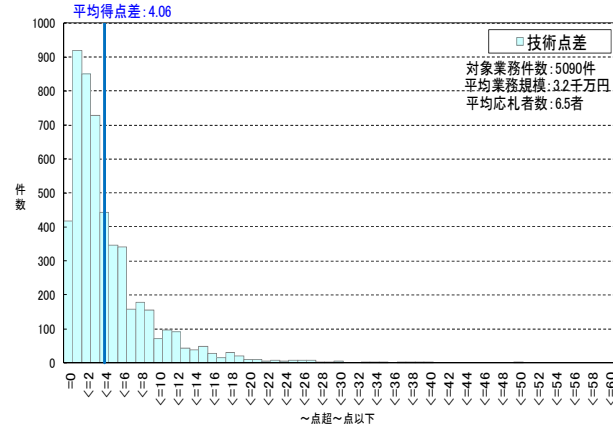
平成23年度

技術評価点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



平成24年度

技術評価点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

注2) 入札価格が予定価格以下の業者が2者以上の業務で分析

3. 総合評価落札方式の運用実態

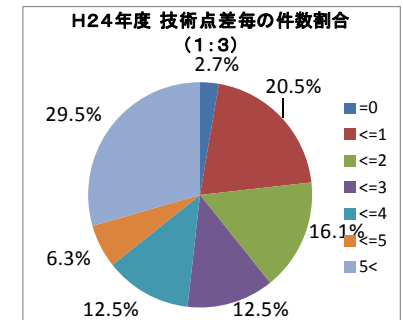
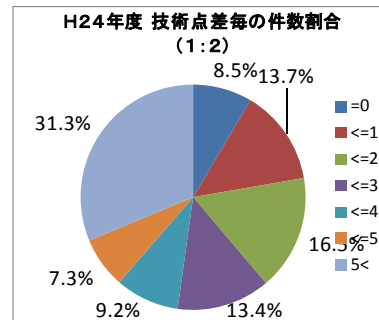
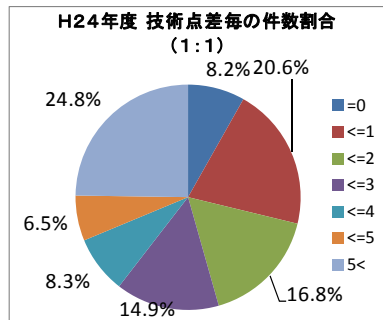
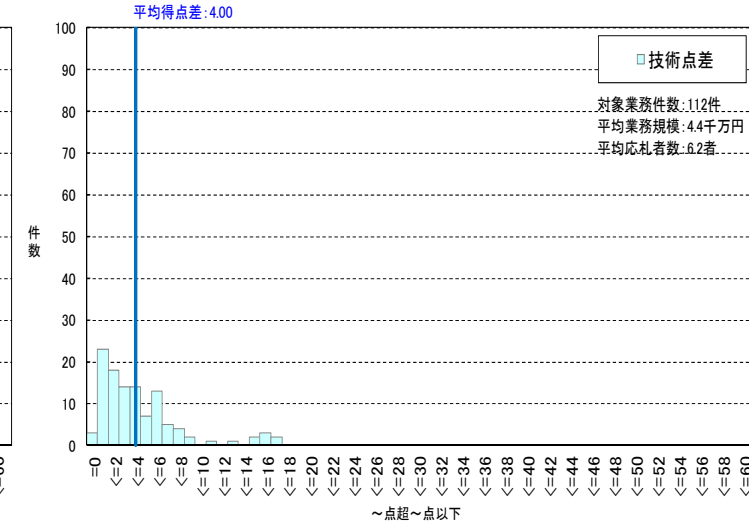
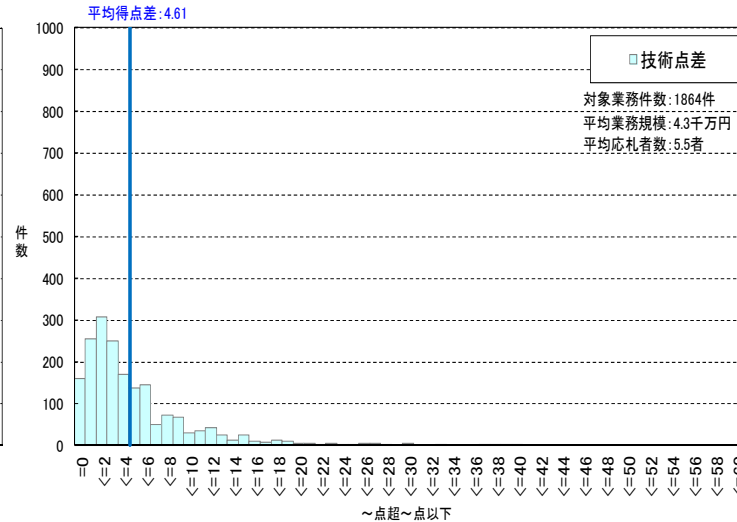
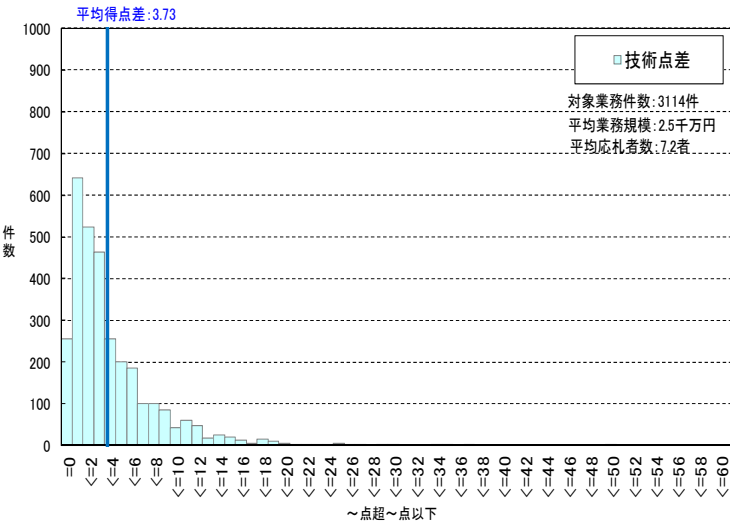
(4) 技術点1位と2位の得点差分布 (配点比率別：平成24年度)

- ・技術点の1位と2位の差の分布は、1:1、1:3は「0～1点」、1:2は「1～2点」にピークがある。
- ・平均得点差は、1:1が約3.7点、1:2が約4.6点、1:3が約4.0点となっている。
- ・ゼロ点差(1同点)は、1:1は8.2%、1:2は8.5%、1:3は2.7%存在する。

H24年度 価格:技術=1:1
技術点の1位と2位の点数差(全業種合計)

H24年度 価格:技術=1:2
技術点の1位と2位の点数差(全業種合計)

H24年度 価格:技術=1:3
技術点の1位と2位の点数差(全業種合計)



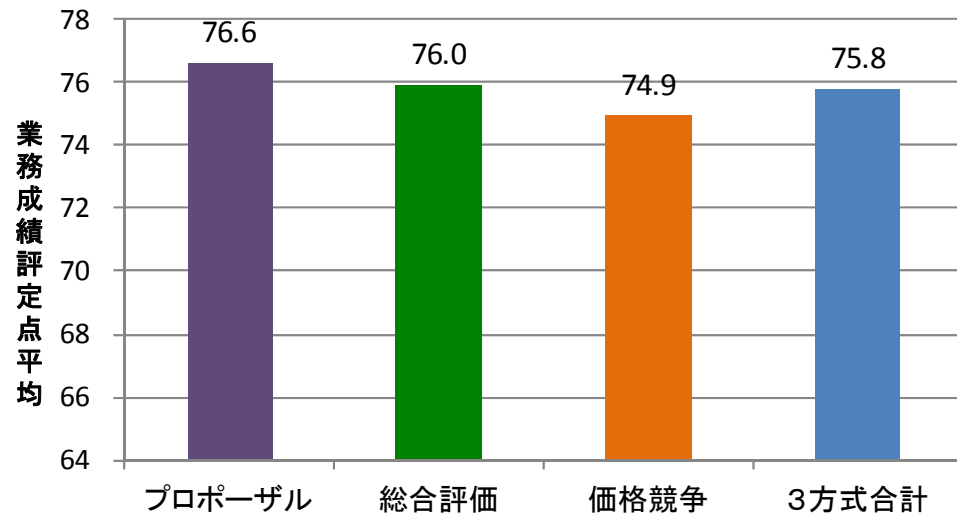
注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)
注2) 入札価格が予定価格以下の業者が2者以上の業務で分析

4. 業務成績の関係(平成24年度)

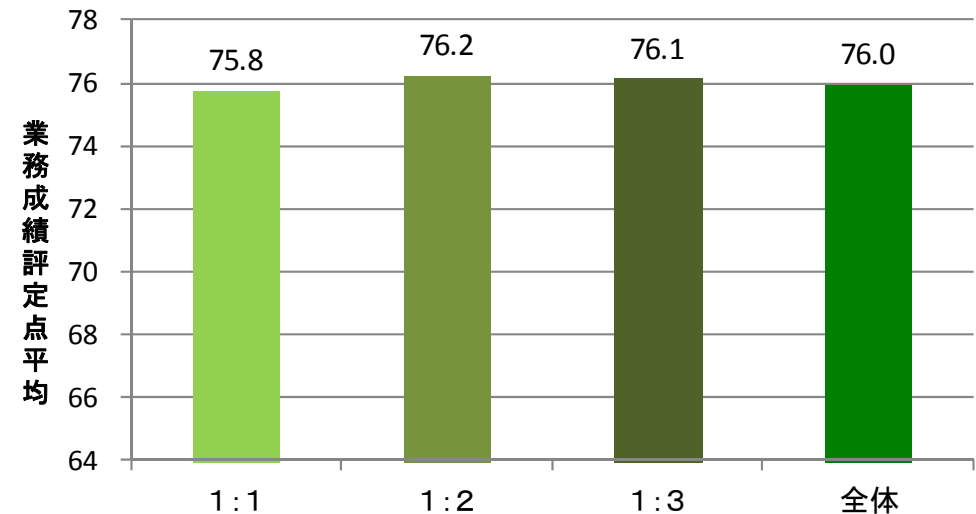
(1) 調達方式・配点比率と業務成績評定点の関係

- ・平成24年度のプロポーザル方式の業務成績表定点平均は76.6点、総合評価落札方式の業務成績評定点平均は76.0点となった。これは価格競争(業務成績評定点平均74.9点)に比して、1.7点(プロポーザル)、1.1点(総合評価)高い得点となっている。
- ・総合評価落札方式における業務成績評定点平均は、価格点と技術点の比率が1:2と1:3の業務の方が1:1の業務に比べて高くなる傾向にある。

調達方式別評定点平均



価格点:技術点比率別評定点平均



※)北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

※)分析対象は、全業種(土木、測量、地質、建築、補償、発注者支援)で、業務成績評定点のある業務。

プロポーザル方式 2463件、総合評価落札方式(1:1、1:2、1:3) 4785件(2842件、1838件、105件)、価格競争 3203件。